



## Kan?Dai 1セミナーの効果「あなたの性格を振り返ってみませんか？」の場合

その他のタイトル	In the case of the effect of "Shall we look on your character?" of Kan?Dai 1 seminar
著者	金子 信也
雑誌名	社会安全学研究 = Safety science review
巻	3
ページ	129-137
発行年	2013-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00018575">http://hdl.handle.net/10112/00018575</a>

# Kan-Dai 1 セミナーの効果 「あなたの性格を振り返ってみませんか？」の場合

In the case of the effect of “Shall we look on your character?”  
of Kan-Dai 1 seminar

関西大学 社会安全学部

金子 信也

Kansai University, Faculty of Safety Science

Shin-ya KANEKO

## SUMMARY

The purpose of this survey is to evaluate the educational effects of a delivery lecture on character analysis for high school students. People are now clamoring about the need for career counseling adapted to the times. The effect of the egogram carried out for high school students as part of career counseling was checked from their comment. Based on this consideration the importance of various types of career counseling for the young people is argued.

## Key words

Kan-Dai 1 seminar, educational effect, personality, career counseling, egogram

## 1. はじめに

本学では、高校生が「大学での学び」に直に触れることが出来る出張授業を「Kan-Dai 1 セミナー」と名付け、各学部の特色を生かしたテーマを用意している。この企画の趣旨は、高校生が将来の進路を選択する際の道標となることはもとより、現在、高等学校で学んでいる勉学へのさらなる動機づけとなることを期待するものであるが、本年度新たに追加されたプログラ

ムである「あなたの性格を振り返ってみませんか？」を実施した際のアンケート結果を検討する。2012年8月、文部科学省は「高校生を取り巻く状況について」<sup>[1]</sup>を公表した。日本の高校生の自己評価に表れた「心の健康」や「授業形態の好み」、「勉学態度」、「学校生活」、「学校や社会への参加意欲」などに関する調査結果から、日本の高校生は、米国や中国、韓国の高校生と比べて自己肯定感が低いことに加え、将来、自らが行使し得る社会への影響力への可能性につ

いての期待は低いことが明らかになった。青少年期とは、好奇心と希望に満ち、失敗や挫折を繰り返しつつもそれらに屈することなく挑戦し続け、試行錯誤の中で、自立した社会人の基礎となる素養や力量を培う時期と考えられるが、学力調査の国際比較やフリーター・ニート数の推移から、学習意欲や就労・勤労意欲の低い青少年が増えつつあるのではないかという懸念が生じている。加えて、学習や労働といった具体的な対象への意欲の減退だけでなく、成長の糧となる様々な試行錯誤への意欲そのものが減退しているおそれも囁かれている。どのような授業が好きかについては、「生徒によく発言させる授業」や「生徒の観察力や応用力を發揮させる授業」において他国と比べ一番低い値であり、勉強の仕方についても、「教わったことをほかの方法でもやってみる」、「できるだけ自分で考えようとする」、「勉強したものを実際に応用してみる」、「問題意識を持ち、聞いたり調べたりする」についても他国と比べ日本の高校生が一番低い値であった。自分自身をどう思うかについて、「私は価値のある人間だと思う」と回答したのは、日本36.1%に対し、米国89.1%、中国87.7%、韓国75.1%という結果であった。また「自分が優秀だと思う」と回答したのは、日本15.4%に対し、米国87.5%、中国67.0%、韓国46.8%であり、そのほかの自己評価に関しても米国や中国、韓国の高校生と比べ、すべての項目において低評価であった。また「私は将来に不安を感じている」と回答したのは、米国60.6%、中国58.0%、韓国79.5%に対し、日本77.7%という結果から日本の高校生の多くが不安を抱いていることは明らかである。学校や社会への参加意欲について、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」と回答したのは、米国69.8%、中国62.7%、韓国68.4%に対し、日本は30.1%に過ぎず、「私

個人の力では政府の決定に影響を与えられない」と回答したのは、米国42.9%、中国43.8%、韓国55.2%に対し、日本80.7%だった。このような日本の高校生の現状を鑑みるに、彼らに自らが持つ特性の良さを気づかせ、自らの主体性と選択の重要性を再認識させることは、極めて重要であろう。

2004年1月に文部科学省からキャリア教育の重要性が示された。キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義した上で、端的にいえば、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」であると位置づけている。キャリア教育が求められるようになった背景には、先に述べたフリーターやニートの増加、自発的離職率の高さ、職業人としての資質の不足など、仕事にまつわる現代の青少年の問題のみならず産業構造の変化に伴う就業環境の変化等が関係するが、児童生徒を教育し、社会に出る準備をさせることが学校の役割とするならば、将来の社会人として生きていくために必要な能力・資質などを育成することが必要であり、教育現場での積極的なキャリア・カウンセリングの充実を提言している<sup>[2]</sup>。

## 2. 対象と方法

上記の観点に基づき、本学専任教員が高等学校を訪問し、模擬授業を実施することで大学での学びを体験できるプログラムの一つ、「あなたの性格を振り返ってみませんか？」への受講の申し入れのあった某県立高等学校二校においてエゴグラムを用いた講義を実施し、その後のアンケート結果を検討した。アンケートは実施前に、結果内容の公表について、生徒への周知ならびに同意の確認が各高等学校において執り行われた。このエゴグラムはキャリア・カウンセ

リングの一種として考えられている交流分析・ゲシュタルト療法に基づくもので、自己発見と人間理解、より良い人間関係を求める「気づき」の科学とされる。

今回の体験講義に用いたのは、桂式自己成長エゴグラム（以下、SGEと略。SGE: Self Grow-up Egogram）である。SGEは交流分析の理論に基づき、桂により開発された質問紙であり、50項目から構成される。各項目に対して「はい」（2点）、「どちらでもない」（1点）、「いいえ」（0点）の3件法で回答させるものであり、質問項目は10項目ずつ、5つの下位尺度から構成されている。5つの下位尺度が意味する内容は、「父親的な役割を担う批判的な親」（CP: Critical Parent）、「母親的な役割を担う養育的な親」（NP: Nurturing Parent）、「冷静な大人」（A: Adult）、「自由奔放な子ども」（FC: Free Child）、「順応した子ども」（AC: Adapted Child）である。各下位尺度毎の合計得点は0点から20点の得点範囲となるが、SGEの各項目が行動を代表している性質上、「いいえ」と答えた項目の行動を各人が意識的に行動化することで自我状態を改善しやすいという特徴がある<sup>[3]</sup>。

講義内容は、ここらの状態を把握するエゴグラムの概説に始まり、普段から各人が感じる「私らしさ」や、「あの人のらしさ」を浮かび上がらせる質問用紙を配布後、回答に要する時間を与え、「いま、ここ」に生きる自分に「気づく」体験となるように努めた（図1、図2）。

参加者全員が全質問への回答を終えた頃を見計らい、回答結果の点数化とグラフ作りの要領を伝え、精神エネルギーの状態確認を促した。一人ひとりの個性が浮かび上がる自分のエゴグラム結果の様相に、生徒の多くが仲間との違いに興味が注がれると共に、グラフの様相が示す内容に関心が向けられた時点で、典型的エゴグラムを10枚程度提示し、自分のエゴグラム結果

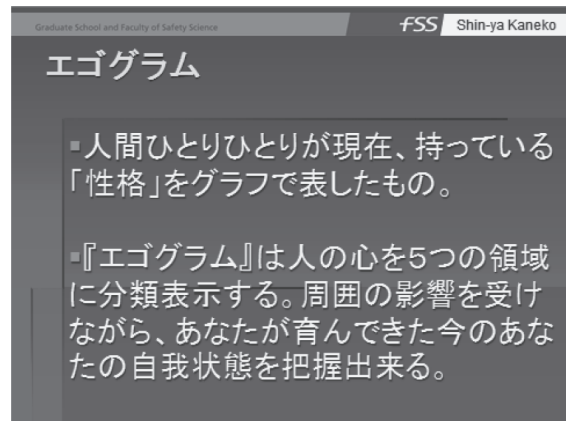


図1 本講義導入時に使用したスライド①

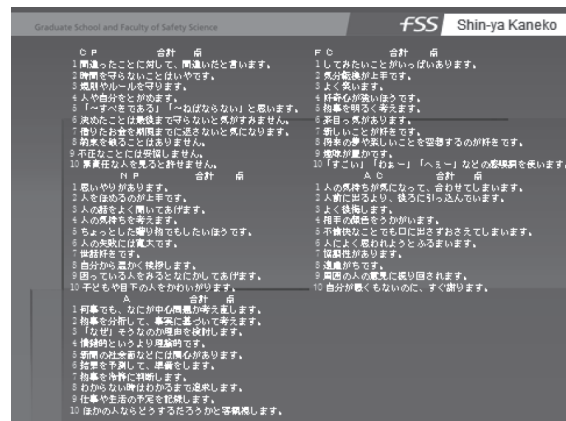


図2 本講義導入時に使用したスライド②

への検討を促した。

エゴグラムは5つの下位尺度をそれぞれ大、中、小の категорияに単純配置しても243通りのパターンが存在するため、むしろ提示した典型的グラフに当てはまらない生徒が多くを占める場合も多い。そこでグラフの外観からの把握にとどまらず、各尺度が意味する内容説明を中心に据えて講義を行った（図3）。

人はみな個性を持つOKな存在であり、個々人は正当性、重要性、平等性の敬意を受けることができる存在であること、考える能力を持った各人の行動は、考え方ひとつ、感じ方ひとつで変わり得るものであり、本人が切望するならば子供の頃に埋め込まれた環境不適合という人



図3 エゴグラムの各尺度が意味する内容説明時に使用したスライド

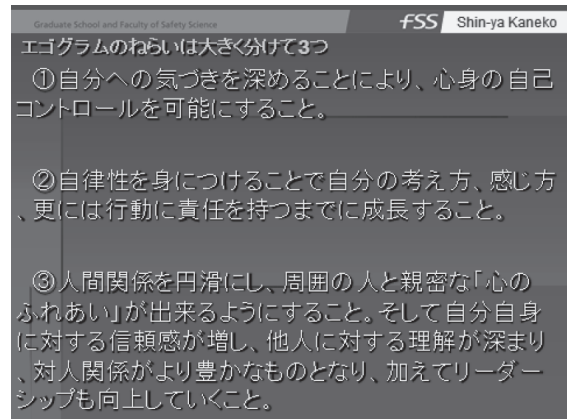


図6 エゴグラムの狙いを説明する際に使用したスライド

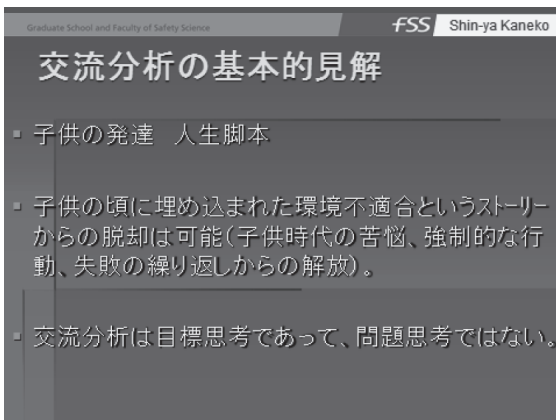


図4 交流分析の基本的見解を説明する際に使用したスライド①

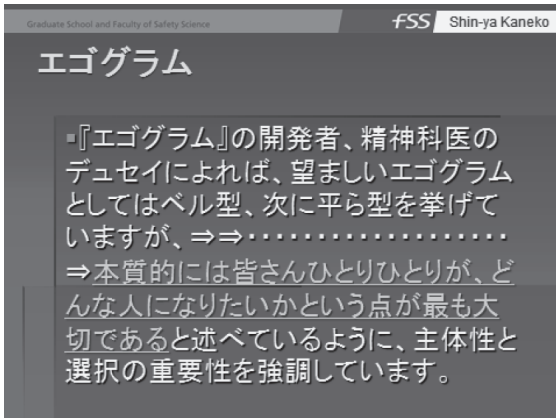


図5 交流分析の基本的見解を説明する際に使用したスライド②

生脚本からの脱却は可能であるという交流分析の基本的見解を伝え、問題思考ではなく目標思考である考え方と、何より主体性と選択の重要性への理解が深められるように努めた(図4、図5)。最後にエゴグラムの狙いを紹介し、まとめとした(図6)。

受講後の感想は、講義の満足度、理解度、進路の参考の有無、そして当該学問分野への興味喚起について、リッカート尺度で回答を求め、加えて自由記述欄を設けた。

### 3. 結果と考察

図7に講義の満足度の結果を示す。563名中546名(97%)が、講義に対して満足したと回答した。

図8に講義の理解度の結果を示す。563名中528名(94%)が、講義内容を理解したと回答した。

図9に進路の参考の有無についての結果を示す。563名中451名(80%)が、今後の進路を考える上で参考になったと回答した。

図10に学問分野への興味喚起の結果を示す。563名中382名(68%)が当該学問分野に対し、興味をもったと回答した。

表1に自由記述による講義の感想結果を示す(総受講者の1割)。

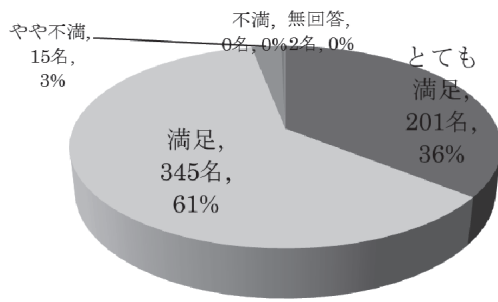


図7 講義の満足度

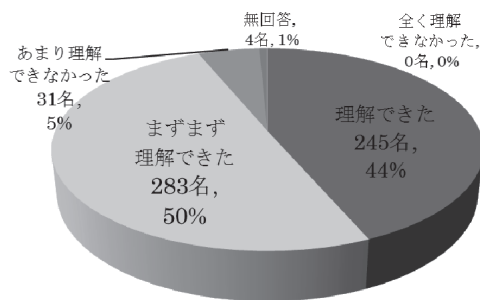


図8 講義の理解度

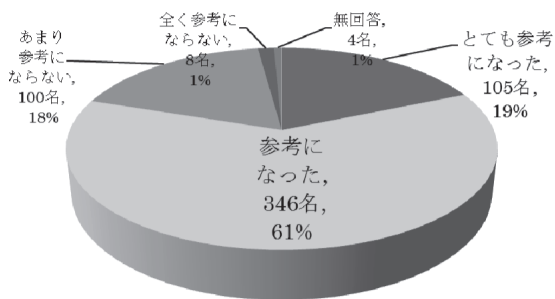


図9 進路の参考の有無

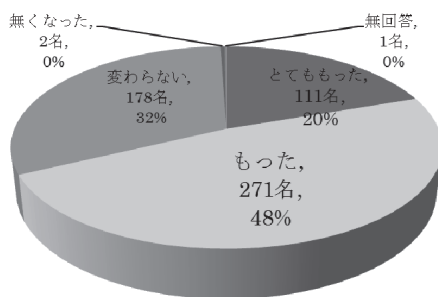


図10 学問分野への興味喚起

表1 講義の感想（自由記述）

• 1	いろいろな性格がわかった。おもしろかった。自分のことがわかった。
• 2	自分の性格が分かったので、これから、自分にできることをして、自分の悪いところを自分なりになおしていきたいと思いました。
• 3	どんな視点で性格をわけているかが心に残った。どんな性格にも長所と短所があり、一言で「良い性格」というものは言いきれないなあとと思った。
• 4	個性は大事だと思った。
• 5	ただ単に、自分のことをよく知るだけなのかなど、思っていたのですが、自分のことに気づくことで、どう将来に生かせるか、という、その先まで教えていただけたことが、心に残っています。
• 6	「エゴグラム」について初めて知った。3つものねらいがあるので上手く活用できたらいいなと思った。
• 7	自分の性格が細かく分類されているなんて知らなかったから新鮮でした。
• 8	自分の性格についてじっくり考えることができたし、自分に近い性格のタイプも知れてよかったです。
• 9	自分の性格がよくわかりました。「人はみんなOKであること」ということが心に残りました。
• 10	エゴグラムの形で人の性格が大体わかるということにびっくりした。
• 11	エゴグラムで自分の状態がわかったし、おもしろかったです。
• 12	自分を変えることは可能で、問題思考するのではなく目標思考することが大事なんだと気付きました。いつも自分のこういうところが嫌いとかマイナス面しか見ていませんでしたが、今日の講義でプラス面も見つけることができ良かったです。ありがとうございました。
• 13	自分が思う通りの性格だった。
• 14	自分の性格の分析がとても当たっていて驚きました。まわりからも自分から見ても考えていた通りでした。分析していく中で、“反抗的”、“ルーズ”な部分が目立ったので、自分の中で気をつけて少しずつ改善していきたいです。
• 15	自分の性格をグラフにして表してみても、おもしろかったです。
• 16	自分の性格にあたっていてビックリでした。もっと深く勉強したいと思いました。

• 17	普段、考えないこと、気付いていないことに視点を置き、あまり深く考えたことのない自分の性格について考えられたことがとても良い機会であったと思う。
• 18	簡単な質問で自分の性格が見破られてしまって、びっくりしました。心理は目に見えないので難しいと思いました。
• 19	私が思っていた以上に人の性格はさまざまですごく興味深かったです。エゴグラムをする機会はないので良かったです。
• 20	自分の性格についてよく分かりました。
• 21	自分はこんな性格なんだという新しい発見ができて楽しかったです。
• 22	心理学の講義を2つ目にうけたけど、心理学にもいろいろな種類があるなと感じた。
• 23	自分の性格のタイプが例として出なかったので、何なのか気になった。
• 24	自分の性格の傾向について予想外なことが知れてよかった。
• 25	自分の性格はダメ！と決めつけるのではなく、自分の性格を見直し、自分に足りないことを埋めていくことが大切だということが、心に残りました。
• 26	自分の性格を見直してよかったです。性格を直したいと思っていましたが、今日の話聞き、個性をつぶすのではなく、個性を生かそうと思いました。
• 27	自分の性格が知れて、よかった。グラフの折れ方によって、まったく性格が変化していてもおもしろいと感じた。これから自分がどんな人になりたいかという考え方が大切だと気づいた。
• 28	エゴグラムがおもしろかった。
• 29	自分の性格を再点検できてよかった。
• 30	自分の性格がわかってよかった。
• 31	自分の知らない自分の性格についてわかっておもしろかった。
• 32	合ってびっくりしました。
• 33	少しのアンケートで分かる多様な性格にビックリした。
• 34	自分に足りない部分がわかり、自分を見つめることができました。ありがとうございました。
• 35	自分はまだ変えられるんだ、そういう可能性があるんだと思える講義でした。
• 36	性格をグラフで表すのがおもしろかったです。

• 37	自分の新しい部分を見つけることができました。ありのままを受けとめるということが心に残りました。
• 38	自分の性格をふりかえれて、良かったです。
• 39	自分は少しまだ子供っぽいなと感じました。でも自分の長所を生かして、他人と良いコミュニケーションを築いていければ良いなと思っています。
• 40	びっくりするくらいACの点数が高くて、思った以上に短所の臆病が合っていた。あがった例にないタイプで、どんなタイプなのかちゃんと知りたいとも思った。
• 41	自分のタイプが予想と違ったところが心に残った。
• 42	自分の性格がどういうタイプであるかが知れたことです。とても興味深かったです。
• 43	性格のグラフの診断結果が自分に当てはまっていた、おもしろいと思った。
• 44	性格についてよく分かった。もっと学びたいと思った。
• 45	どの講義もすごく楽しかったです。
• 46	自分の性格を調べたこと。
• 47	自分の性格タイプを知れてよかったし、楽しかった。
• 48	先生の話し方がおだやかだった！たのしかったし、心理学に興味がわきました。今回の講義を生かして、性格を見つめなおし、直せるところは直したいです。
• 49	人によって全然結果が違ったことに驚いた！
• 50	自分がどのような性格をしているかがよくわかりました。どんな人でも成人として考える能力があることや、みんなOKだということを知ることができて良かったです。
• 51	自分の性格を振り返って今後の自分の行動を考えていこうと思った。利点をのばしていつ、自分のあり方を考えていきたいと思った。
• 52	自分の性格について振り返ることができました。“エゴグラム”は初めて知りましたが、楽しくできました。
• 53	“自分を知ること”はとても大事で、これからの進路についても生きていくなかでも自分を知っていると自分にとって満足できる生活、生き方ができるんだろうなと思いました。

講義に対する満足度について、97%から満足との回答を得た。それを裏付ける生徒自身の講義に対する率直な感想を示す表1の自由記述の

多くにおいて見受けられた「おもしろい」、「楽しかった」、「とても興味深かった」、「もっと学びたい」との声から、自らの性格を分析検討するということが、思春期の彼らにとって日頃から高い関心を抱く内容だったことが推察され、彼らの期待に即した講義を展開出来たものと考えられた。

性格判断を可能にするエゴグラムとの出会いについて言及した「6, 10, 11, 15, 19, 27, 28, 33, 36, 43, 52」やエゴグラムを用いて自分の性格を把握したことへの感想が「1, 2, 3, 5, 7, 8, 9, 11, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 46, 47, 48, 50, 51, 52, 53」で挙げられたが、「13, 14, 16, 32」に代表されるように認識通りの結果だったとする一方で、「21, 24, 31, 41」のように自分の性格がそれまで自覚していたものとは違う側面を有していたことへの驚きとしても示された。

講義の理解度についても高率の94%から講義内容を理解したとの回答が得られ、これを裏付ける自由記述の内容も、生徒各人の個性が垣間見えるものとなっていた。「3」の「どんな性格にも長所と短所があり、一言で「良い性格」というものは言いきれない」や「4」の「個性は大事だと思った」、「5」の「単に自分のことをよく知るだけなのかと思っていたが、自分のことに気づくことで、どう将来に生かせるかという先の展望にまで思いが及んだ」点に加え、「6」の「エゴグラムの上手な活用法への期待」にまで及んでいた。先行研究ではエゴグラムによる短大生の性格特性<sup>[4]</sup>や看護学生の自我状態の変化<sup>[5]</sup>、また適応指導教室の指導員における現実自我等の把握<sup>[6]</sup>といった教育現場での積極的活用がみられるが、医療現場での糖尿病患者の性格特性を計り、以後の教育的指導の側面に生か

す取り組み<sup>[7][8]</sup>のほか、アスリートの自我発達と競技能力向上等を意図した心理サポートに関する検討<sup>[9]</sup>においても応用されている。

また大学生を対象に自我構造、なかでも自尊感情に焦点を当てた研究<sup>[10]</sup>では、他者との関わりの結果、相手から良い結果を返される経験を意味する随伴経験と自己効力感との関わり、および自尊感情との関係が論じられており、エゴグラムの下位尺度の有効利用の可能性が示されている。

今回の感想結果の「26」に見受けられるように、これまで自己の性格について否定的感情を有していたが、それもかけがえのない個性として認めつつ、足りないところを主体的に努力して変えてみたいとする気持ちの変化と、「35」に示された「自分はまだ変われるんだ、そういう可能性があるんだ」という気づきを引き出すことが、キャリア・カウンセリングとしての目標である。

加えて感想結果の「9」に見られたように、人はみな個性を持つOKな存在であり、個々人は正当性、重要性、平等性の敬意を受けることができる存在であること、考える能力を持った各人の行動は、考え方ひとつ、感じ方ひとつで変わり得るものであり、本人が切望するならば子供の頃に埋め込まれた環境不適合という人生脚本からの脱却は可能であるという交流分析の基本的見解を伝え、問題思考ではなく目標思考である考え方と、何より主体性と選択の重要性への理解を推し進めることは、キャリア教育の重要性が叫ばれている現在、有意義と考える。キャリア教育という言葉は、登場して10年前後の比較的新しい言葉であり、初等教育から高等教育まで全ての学校教育段階において用いられているが、複数の省庁が政策の立案・実施に携わっている。そのため学校教育を所管する文部科学省による定義では「一人一人の社会的・職業



的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とされており、経済産業省によれば、「その実施を通じて、青少年一人一人の個性・特性を見極め、将来の進路と日々の教育活動の意義とを結び付け、社会的自立に向けた力を育てていくものである」とされる。多少の文言の違いはあれ、「社会的・職業的自立に必要な能力や態度を学校教育の中で養うこと」を意図した「キャリア」教育は具体的な教育プログラムを指すものではなく、全ての学校を対象とした画一的なプログラムを設けるべきものではなく、各学校がその実情に応じた独自のプログラムを設けるべきことも示唆されている<sup>[11]</sup>。

進路の参考の有無について、80%から参考になったとの回答を得、また学問分野への興味喚起については、68%から参考になったとの回答を得た。前述の通り、感想の多くにみられたエゴグラムを実生活において今後生かしたいとする意見以外に、「22」で示された心理学への興味として表れたケースに加え、「16」でみられるように「もっと深く勉強したいと思いました」という表現からも専攻分野として興味を喚起したものと考えられるが、ここで芽生えた知的好奇心の芽を結実させていくためには、高大連携としての取り組みの、より一層の強化が望まれよう。

#### 4. 結 語

某県立高等学校二校の生徒563名を対象に、エゴグラムを用いた体験講義を実施した。本講義の趣旨は、子ども達一人ひとりに、生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いに対峙できる自己の可能性や適性についての自覚を深めさせ、彼らが自らの意思と責任で進路を選択できるようにするための個別またはグループ別に行う指導援助であるキャリア・カウ

セリングの一環として講義を展開することで、自分の適性を見極め、進路先の選定をはじめとした自己決定力と、その方向性へと向かう行動力の源が他ならぬ各人の主体性にある自覚、自分になりたい人間像に向かう上で足りない部分は何かという自覚と行動の変容を意図するものであった。講義に対する満足度、講義の理解度において高い支持を受けたことから、性格の多様性に加え、それを把握する手法のひとつであるエゴグラムの趣旨と内容への理解を促したものと考えられるが、自由記述の感想結果「34」、「35」からうかがえるように、自分を見つめなおし、生き方についての自覚を対象者全員に深めてもらうことが本来の目標である。

現代教育のシステムは、知識偏重の弊害が叫ばれて久しいが、「進路指導」に関して中学校・高等学校の学習指導要領に示されているように、「生徒が自らの（在り方）生き方を考え主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」が明記され、生徒が「人間としての（在り方）生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことができるような配慮が謳われている。キャリア教育が提唱された背景として変化の激しい社会情勢の中で、一人ひとりが自分の生き方や進路について、自らの確に判断して選択・決定する責任ある取り組みをしていかなければならない状況におかれていることから、今回用いたエゴグラムのほか、多様なキャリア・カウンセリングの可能性に期待したい。

#### 参考文献

- [1] 高等学校教育部会（第11回）配付資料。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryu/1324726.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryu/1324726.htm)。（2012年12月24日確認）
- [2] 坂柳恒夫（2007）. キャリア・カウンセリングの概念と理論 愛知教育大学研究報告 56

- pp.77-85.
- [ 3 ] 傳法勇（2012）教師のストレスに関する研究—パーソナリティーとストレスコーピングの関連について—  
[http://www.edu-c.pref.aomori.jp/kenkyu/2011/reports\\_data/d\\_ky22.pdf](http://www.edu-c.pref.aomori.jp/kenkyu/2011/reports_data/d_ky22.pdf)（2012年12月25日確認）
- [ 4 ] 林悠子（2009）. 短大幼児教育学科学生の性格特性について（3）奈良文化女子短期大学紀要 40 pp.109-116.
- [ 5 ] 任和子, 豊田久美子, 中井義勝, 菅佐和子,（1997）. エゴグラムからみた看護学生の自己状態の変化 京都大学医療技術短期大学部紀要 9 pp.73-78.
- [ 6 ] 野々口浩幸（2012）. 適応指導教室の指導員における現実自我と支援活動時のイメージ自我 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター研究員紀要（20） pp.67-76.
- [ 7 ] 前川弘美, 鳴海喜代子, 佐瀬真粧美, 正木治恵, 永江美千代, 野口美和子（1992）. 糖尿病外来通院中の老人の療養態度からみたセルフケア 千葉大学看護学部紀要 14 pp.103-106.
- [ 8 ] 小竹英俊, 高橋純子, 玉山由紀, 佐藤しのぶ, 及川京子（2006）. エゴグラムによる肥満糖尿病患者の性格特性および教育入院の効果の検討 仙台赤十字病医誌 15 pp.39-44.
- [ 9 ] 中澤史（2000）. 対人関係に悩む学生テニス選手に対する交流分析の検討—成長プログラムのスポーツ場面への援用 交流分析研究 25（2） pp.167-173.
- [10] 豊田弘司（2010）. 大学生における自我構造, 自尊感情及び随伴経験の関係 教育実践総合センター研究紀要 19 pp.1-5.
- [11] 村上純一（2011）. 中教審「接続答申」における「キャリア教育」の意味 東京大学大学院教育学研究科紀要.（50） pp.315-323.

（原稿受付日：2013年1月31日）